

平成25年度第3回<sup>もり</sup>森林の未来を考える懇談会資料

## 森林環境基金事業の評価について

- 1 森林環境の適正な保全
- 2 森林資源の活用による持続可能な社会づくり
- 3 県民参画の推進
- 4 森林環境税を活用した取組のPR

平成25年12月25日

福島県 農林水産部 森林計画課



# 森林環境基金事業の評価

## 1 森林環境の適正な保全

- ・ 水源区域、並びに水源かん養及び山地災害防止機能の発揮を重視する区域において、手入れが行き届かず公益的機能の低下が懸念される森林に対し、補助事業により間伐等の森林整備を実施している。



森林環境税を活用した森林整備箇所の  
現地調査の状況



森林整備（間伐）実施から2年が経過  
した森林の状況

### ○現地調査等での委員からの主な意見

- ・ 森林環境税を活用してこのような森林整備が行われていることを、県民に直接見ていただくことも検討してはどうか。
- ・ 取組の内容を理解でき、統一感のある標識等を検討してはどうか。

### ○事業の方向性

- ・ 多大な被害を受けた海岸防止林の復旧、並びに放射性物質の影響からの林業の復興及び森林の再生等の、復旧・復興関連の事業との役割分担を考慮しながら、計画的な森林整備により公益的機能の維持増進を図っていく。
- ・ 県民との意見交換の際に、森林環境基金事業実施箇所の現地調査も行えるよう検討する。
- ・ 標識の設置に当たっては、デザインなど市町村の独自性を尊重しつつ、表示内容の充実に努めたい。

## 2 森林資源の活用による持続可能な社会づくり

- ・森林において生産された木材を有効に活用する基盤を整備するとともに、公共性の高い施設の木質化や小中学生を対象とした木工工作等の体験、及び地域産業による木造住宅の建設促進等により、県産材利用の普及促進に取り組んでいる。
- ・市町村有施設、学校並びに未就学児が通う幼稚園及び保育施設における、県産材の利活用や木質バイオマス利活用を推進する、市町村が創意工夫を凝らした優れた事業について交付金を交付している。

### ○現地調査等での委員からの主な意見

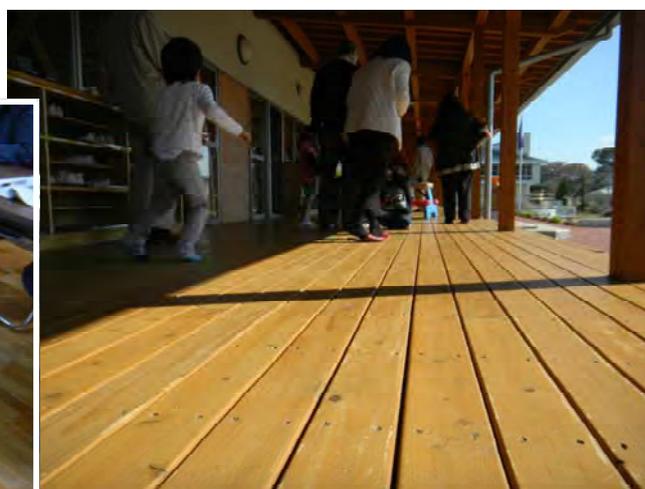
- ・重点枠による、木造木質化や木製品導入の様々な取組が行われている。
- ・幼稚園での取組は、子どもが小さい頃から木材に親しませることになり、意識の醸成に大きな効果があるため、広げていってほしい。
- ・昔は木造の建物を黒光りするまで使っていた。森林環境税を活用した木造木質化や木製品導入と合わせて、それを大切に使うことや、使えなくなった時にどう更新するかという視点での検討をしておくことも必要。



県産材を使った木工教室で製作したテーブル・ベンチの高齢者施設への贈呈



県産材を活用した小学校児童用机椅子



県産材を使い木質化された幼稚園のテラス

### ○事業の方向性

- ・木材を利用することの意義について県民理解を促すとともに、木材の搬出と有効利用を図り、持続的な森林整備を促進していく。
- ・地域住民の意向や実情に精通した市町村による、県民や次世代を担う子ども達に身近な場所での取組は、森林環境の保全のみならず意識の醸成の面からも重要な事業であり、今後も継続して支援していく。

- ・木造化や木製品の導入を契機とした森林環境学習の取組も支援していく。
- ・木製品の機能性や耐久性は向上が図られてきているが、木造施設や木製品を大切に使う意識を醸成していくことや、更新していく仕組みについては、今後検討していきたい。

### 3 県民参画の推進

- ・森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成のため、森林ボランティアの活動支援や企業・団体等の森林づくりの支援、森林づくり指導者の育成、県民が容易に利用できるフィールドの整備等を実施している。
- ・全ての県民が森林づくりに参画する機会を幅広く確保するため、市町村が県民参画の推進等について継続的に一定の取組を行えるよう交付金を交付している。

#### ○現地調査等での委員からの主な意見

- ・石川町の藤田城跡森林整備は、基本枠を活用した取組が地域に根付き広がった良い事例だった。
- ・鮫川村の館山公園は、平成18年度にも重点枠事業を実施し、現地調査も行ったが、その取組が、毎年東京の学生と交流する継続した取組となっていた。
- ・森林環境税での取組は「呼び水」であり、これにより森林づくりの意識が高まり、県民自らの取組として広がっていくことが理想の姿。



石川町藤田城跡森林整備



鮫川村館山公園

#### ○事業の方向性

- ・森林づくり指導者の育成等の県民参画の推進に引き続き取り組む。
- ・森林環境交付金事業（森林環境基本枠）は、地域住民の意向や実情に精通した市町村による、県民参加の森林づくりや森林林業についての理解促進と意識の醸成に資する重要な事業として、今後も継続して支援していく。
- ・森林づくり活動が県民運動として大きく展開していけるよう、森林環境税を活用した先導的な取組を行って行く。

## 森林環境学習

- ・全ての県民が森林づくりに参画する機会の確保のため市町村に交付している交付金において、小中学校の児童・生徒を対象とした森林環境学習の実施は必須としている。
- ・県立学校における、森林の環境や地域における役割などについての学習の取組を支援している。

### ○現地調査等での委員からの主な意見

- ・各学校に、もりの案内人と連携して取り組む方法が定着して来ている。
- ・一方で新たに取り組む学校では、どのような取組を行えばいいかわからない、という悩みがあるようだ。
- ・保護者や教員も、森林の知識が豊富とは限らないので、今後、森林環境学習を推進するためには、そういった大人達を対象とした学習も検討すべきではないか。



県立学鳳中学校の雄国沼周辺散策



学校に隣接した森林環境学習の森



児童による学習内容の取りまとめ

### ○事業の方向性

- ・森林環境学習への取組は、森林環境の保全及び意識の醸成に資する重要な事業として、今後も継続して支援していく。
- ・この取組をより多く広げていくため、教育関係者への情報提供を積極的に行っていく。
- ・引き続き、県民に対し森林環境学習や森林整備活動の指導ができる人材の育成に取り組むとともに、森林づくり活動を県民運動として展開するための取組を行っていく。

## 4 森林環境税を活用した取組のPR

- ・森林環境基金による取組を全県的に周知するため、成果発表会の開催、及び新聞広告等での広報に取り組んでいる。
- ・また、震災や原子力災害発生以降の福島県の森林の現状に対する理解を深め、森林づくり意識の浸透や拡大を図るため、県民による森林活動や森林に関する行政の取組等の森林環境に関する情報の発信を行っている。

### ○現地調査等での委員からの主な意見

- ・納税を通じて、「森林に関わっている」ということを感じてもらうことが、森林環境税の大きな目的。
- ・森林環境税の目標とそのために実施してきた取組は様々な成果を上げているが、そのことが県民に充分には浸透していないのではないか。
- ・森林に関わりのない人達にも知ってもらうための広報活動や普及活動、これまで以上に実施していく必要がある。
- ・現在では、最初にインターネットを検索する人も多く、「ふくしま森まっぷ」はそういう方へ情報を伝えることができるため、内容を充実させて欲しい。
- ・新聞やテレビ、インターネット等の全県的な発信に加えて、無料全戸配布のウィークリー紙やコミュニティラジオなども活用し、より多くの県民に伝わるようにする。
- ・森林環境税が身近な所で使われていることを、地域の身近な話題として発信すれば、もっと周知されるのではないか。



新聞広告の掲載



森林環境基金事業成果発表会の開催



全国的なイベントにおけるパネル等でのPR



「ふくしま森まっぷ」による森林の情報の発信

## ○事業の方向性

- ・森林環境基金事業の取組に加え、福島県の森林の現状や対応する様々な施策などの正確な情報を、県内外に向け発信していく。
- ・インターネットやメディア、チラシ、ポスター等の活用する媒体の特性を活かし、地元へ向けた発信や全国へのPR等を戦略的に取り組んでいく。
- ・森林文化をテーマとした体験型のPRも実施し、引き続きふくしまの森林についての県民理解の深化と、守り育て引き継いでいく意識の醸成に取り組んでいく。
- ・併せて、一般県民を対象とした森林環境基金事業実施箇所の現地調査や意見交換を実施していく。